



ケニア国内のお得な旅行情報を定期的にお届け！

2026  
6月  
Vol.5

# サファリの鉄人ニュース

新年度としては初めてのお届けとなる「サファリの鉄人ニュース」。改めて説明しますと、このニュースレターは自称「サファリの鉄人」が日々の業務を通じて得たネタやお得な情報をケニア在住のみなさんへ読み物の形で不定期に発信しているものです。気になるテーマがありましたらお気軽にお問合せください。

## 1. Offer 1泊2日でも楽しめる旅行案

日本だけでなくここケニアでも5月を最後にカレンダー上の3連休はしばらくやって来ないことにある日気づきました。そこで今回は土日を使った「プチサファリ」にぴったりの目的地をいくつかご紹介します。次の週末にぜひトライしてみてください。

### ナイロビから4時間で北半球

広い地球を見渡した時に、赤道直下に“安全に”立てる場所はそれほど多くないことに気づきます（約8割は海！）。そのひとつがナイロビから車で4時間の距離にあるケニア山麓の町ナニユキと、そこに隣接するオル・ペジェタ自然保護区です。グレービーゼブラやアミメキリンなど北半球特有の動物が生息するオル・ペジェタは民間による保護活動の成功例としても知られていて、園内にあるチンパンジーやクロサイの保護施設にはサファリ中に立ち寄れるようになっています（見学は無料）。さらに日本人としては地球上でたった2頭にまで減ってしまったシロサイ北部亜種について学べるツアーへの参加（追加費用要・完全予約制）も外せません。なぜなら自然界での絶滅が決定的になっているこの希少な動物を種としての絶滅から救うための国際プロジェクトに、iPS細胞の関連技術が使われているからです。宿を選ぶ際には価格はもちろんのこと、その立地も気にしたいところ。実はこの保護区の入園料はシングル・エントリー制（24時間以内でも園外に出ると失効してしまう）なので、1回の支払いで朝晩2回のサファリを満喫するには園内のロッジを選んでおく必要があるのです。その点においてお勧めなのは動物が集まる水場の前に建つセレナキャンプです。3食付のレジデント料金は下表のとおり。ナイロビからの送迎を付けたパッケージ料金やお部屋のアップグレードについてもアドバイスできますので、お気軽にご相談ください。

宿泊料金 (KES) ※	～6月	7月～
大人1名1室利用時	22,500	28,500
大人2名1室利用時	34,500	41,500

※金・土は1,500KES/人の割増料金あり



チンパンジー保護施設



セレナキャンプ

### ナイロビから3時間で世界遺産



エレメンタイタ湖畔

2011年に世界自然遺産に登録された「ケニア大地溝帯の湖沼群」のひとつであるエレメンタイタ湖はナイロビから自家用車で気軽に行ける距離にあります。ナクル湖のような“洪水”はまだ起きていないため、時期によってはフラミンゴの群れも見られます。またその湖畔に広がる草原と森は私営保護区として保護されていて、昼間はロスチャイルドキリンに、日没後はオオミミギツネを始めとする夜行性動物に出会える場所となっています。眺望の点からお勧めなのはセレナキャンプ。食事は朝食も含めて毎回チョイスメニューなので、少ない部屋数と併せてゆったりとした時間が過ごせますし、屋外の温水プールもこれから“冬”を迎えるケニアでは重宝するでしょう。大人の空間を求めているようで、3歳以下のお子様の宿泊が不可な点だけご注意ください。

### ナイロビから1時間でマサイマラ



カレンブリクセンキャンプ

陸路だと6時間かかるマサイマラも、ウィルソン空港からプロペラ機に乗れば1時間後には草原の真ん中に降り立つことができます。土日の1泊ではもったいない感じもしますが、実は大手エアラインが運航する朝7時発の往路と15時発の復路を組み合わせるとマサイマラでの滞在時間を31時間にまで延ばすこともできます。宿の候補としてはクラシックな雰囲気が特徴のカレン・ブリクセンはいかがでしょう。このキャンプが所在するマラ・ノース私営保護区の入園料はマサイマラのそれとは異なり1泊分です翌日午前のサファリもカバーしてくれる点でもお得と言えます。本格的なサファリの前の下見として、あるいは気分転換のためだけに訪れるマサイマラ、というのもアリなのでは！？

イラン紛争の長期化を受けて国内線各社は片道あたり最大で25ドルの燃油税を導入しました。この値上げは例えばマサイマラに家族4人で飛ぶ場合だと総額200ドルにもなるため、費用の面からあえて陸路を選ぶ人が増えて来るかもしれません。陸路と空路のどちらが安くなるかは人数や宿のランクによって左右されますので、候補となる日付と行先が決まったらお気軽にご相談ください。



ケニアのプロサファリガイド試験の過去問やその参考図書から抜粋したクイズコーナー。今回は何問分かるかな？

Q1.以下の動物の中で雌の方が雄よりも身体が大きくなるという珍しい種は？

- A ライオン
- B アフリカゾウ
- C シマウマ
- D ブチハイエナ

Q2.ブチハイエナは骨を砕くほどの強力なあごを持ちますが、その糞の色は？

- A 茶色
- B 白色
- C 緑色
- D 黒色

## 4. Report

### “徹夜サファリ”のすすめ

ナイトタイムエコノミー(Night-time Economy)とは日没後の消費拡大や観光客の誘致を目的とする経済活動のことで、日本ではインバウンド対策と絡めて語られることが多いようです。数年前からここケニアでも目にする機会が増えていた矢先、つい先日その一例と呼べそうな体験をしてきましたので作例と共にレポートにまとめました。

### ルモ野生動物保全区

動物発見の成否を長らくドライバーの腕に依存してきたケニアですが、10年くらい前から南部アフリカで見かけるような大がかりなフォトハイド（撮影用に作られた観察小屋）をちらほら見かけるようになりました。この施設の利点としては小屋自体がカモフラージュされているため動物たちに気づかれることなく彼らの様子を至近距離から観察・撮影できることが挙げられます。また半地下に作られていることが多いため、車上からの撮影時とは異なる角度から迫力ある写真が撮れるのもメリットです。今回はいくつかの候補地の中から家族連れでもアクセスしやすいルモ野生動物保全区を選びました。このエリアはケニア最大の国立公園であるツァポに隣接しており、動物達の季節的な移動ルートを確認する点でも重要な役目を果たしています。宿は地平線が360度見渡せるライオンズ・ブラフを選びました。滞在中はプールサイドから多数のシマウマが水場にやってくる様子が毎日見られました。



フォトハイド前に集まるシマウマ

### ナイトサファリ&ハイド

コース料理のディナーの後、まずは車によるナイトサファリがスタート。助手席に乗り込んだ“スポッター”がサーチライトを片手に、哺乳類はもとより樹上のフクロウやカメレオンさえも見つけ出す姿には感動を覚えました。眠ってしまった息子をロッジへ送り届けた後、私だけがハイドで一夜を過ごすために暗闇のサバンナへ引き返しました。施設の中は暗室のような撮影エリアと、トイレや冷蔵庫まで備わった休憩エリアに分かれています。ハイド滞在中にはガイドがついてくれたので、夜間撮影のカメラ設定について助言をもらうこともできました。この日はシマウマが断続的に水を飲みに来た他、マングースやハイエナも姿を見せました。朝方に現れた雄のバツファローは撮影用の窓のすぐ近くにまで来たので恐怖を感じるほどでした。初めての“徹夜サファリ”は大成功でしたが眠気と疲れもピークに達したため、ガイドに頼んで温かい朝食と家族が待つロッジへ7時頃連れて帰ってもらいました。



仮眠用の2段ベッド



作例：ブチハイエナ

### 予算で選べる宿タイプ

このハイドは同じ傘下にある3軒のロッジで共有していますが、利用プランも3時間や8時間など選べるようになっていますが、海外のアマチュア写真家などは貸し切りで1週間も滞在することがあるそうなので事前予約が必須です。今回は季節を変えてライオンを狙いたいと思いますが、その時は今回のライオンズ・ブラフではなく、丘の途中にある一番安い価格帯のテントロッジにしようと思います。ふかふかのベッドがあったとしてもハイドにこもりっきりの私にとっては意味がありませんので。



ライオンズブラフからの眺め

お問い合わせ・無料旅行相談は Naturesurf Africa Safaris 井村まで

e-mail: [imura@naturesurfafrika.com](mailto:imura@naturesurfafrika.com)  
URL: <https://safari-geek.com/>

TEL: +254-793961322 (WhatsApp)  
Line ID: 1muran

バックナンバーはこちらのURLから  
<https://safari-geek.com/newsletter/>